

H27. 4. 9 (木)

たつみっこのための



# すたなび

NO. 56

辰美小学校

新年度が始まりました。入学、進級した辰美っ子の表情は、どの子も自信にあふれています。自分を成長させたいという子ども達の思いを伸ばしていけるよう学校も努力していきたいと思っています。

子ども達が、「自らの可能性に挑戦する姿勢」を持ち続けられるよう、学校と家庭とが連携していきたいと思っています。平成21年度3学期から発行を継続してきた「すたなび」も、今年度は学期ごとの発行になります。

注:「すたなび」とは、“Study Navigation”の略語。意味は「学習の指針」です。

新学期がスタートし、学習の準備の様子が気になります。筆箱や机の中を見ると学習に対する姿勢や意欲が表れているように思えますが、いかがでしょう。

## 学習用具をそろえる大切さ

<現状1> シャープペンシルは、どの学年も使っていない。

シャープペンシルは、小学生には向かないので、本校では認めていません。「芯がすぐに折れる、音が気になる、芯の入れ替え」などで、授業に集中できません。また「こわれる、なくなる」など、トラブルの原因になる可能性も高いからです。

<現状2> 筆箱の中のえんぴつが、削られていなかったり、折れたままである児童が多い。

3本の指でしっかりとえんぴつを持ち、濃く書くことで、刺激が脳に伝わり、漢字も覚えやすくなります。また、「えんぴつを削ってくること」は、学習の構えを作ることになります。毎日5本は、家から削ってくるようにしましょう。

<現状3> 赤えんぴつは、必ず持ってくる。

ペンやボールペン等いろいろな種類があると、クラス全体の指導がしにくく、授業態度への影響やトラブルの原因になりがちなのは、シャープペンシルと同じです。

<現状4> 消しゴムは様々な色や形の物が多く、遊び道具にもなっている。

練り消しゴムや香りつき消しゴムを持ってくる子も見られます。よく消える物もありますが、授業に集中できなかったり、トラブルを未然に防ぐためにも望ましくありません。

<現状5> 下じきを使っていない児童がいる。

きちんと下じきを使って字を書いた方が、しっかりときれいに書けます。

以上の様子から、辰美小学校では「基本の学習用具」をおすすめしています。ご家庭でも、お子さんの筆箱の中をご覧ください。

●シャープペンシル、色ペンは、持ってこない。(宿題等でも使わない。)

【筆箱の中】

- 1 えんぴつ5本 程度 (削って持ってくる。濃さは、Bか2Bがおすすめ)
- 2 赤えんぴつ (1本か2本) \*キャップ可
- 3 白い消しゴム (よく消えるもの) \*ミニえんぴつ削り可
- 4 名前ペン (油性のペン)
- 5 定規 (10cm~15cm程度。折れ曲がったりせず、目盛りのあるもの)

【その他いつも用意するもの】

- 6 色えんぴつ (机の中に入れておく)
- 7 下じき

【道具入れ】 ★1・2年生:引き出し型の道具箱 ★3~6年生:給食袋のような小袋

- 8 のり (必ず) \*ミニセロテープ (あれば便利)
- 9 はさみ (必ず) \*ホッチキス (あれば便利)

10 学年により必要なもの (三角定規、分度器、コンパスなど)

【その他】

- 11 読書用の本を入れる手提げ袋 (机の横にかけて、すぐに本が出せるように。)



\*写真は一例です。

キャラクターについては、特に禁止しませんが、「派手なもの」「遊びの要素が強いもの」は、なるべくさけてください。

裏へ

学習の環境を整え、「学習そのものの楽しさ」を感じられるようにすることが、大切です。



小学校での学習内容は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に、「読み・書き・計算」などの基礎学力は、今求められている「生きる力」へとつながります。学校と家庭が連携することで、それらの学習内容がより確かに定着します。よりよい家庭学習の習慣化に向け、この手引きをお子さんと一緒にご覧いただき、話し合っていたいただければと思います。

# 《家庭学習の手引き》

家庭を学びの環境に ～主体的な学びをめざして～

## その1 基本的な生活習慣を見直しましょう

早寝早起き・朝食・朝の排便を大切にしましょう。

## その2 家庭の学習環境を整えましょう

決まった場所で一定の時間テレビを消して学習に集中しましょう。

## その3 学習習慣の定着をめざしましょう

基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けましょう。

## その4 保護者も家庭学習に関わりましょう

子どもの学習内容に関心を持ち、励ましながらいっしょに取り組む姿勢を持ちましょう。

### ※ 各学年の特徴と支援のポイント ※

#### 小学校 1・2年生 基本的な学習習慣を身に付けさせる

(学習時間のめやす 20～30分)

##### ①学習の特徴

- 45分を1時間とした授業の中で「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。その中には、繰り返し練習することで力が付く学習内容がたくさんあります。2年生で学習する「九九」はそのよい例です。
- 「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の授業の準備をする」「身の回りの整理整頓をする」等が、学習の基本になります。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。

##### ②家庭での支援のポイント

- ◆ 学習を始める前にテレビなどを消し、学習する場所の整理整頓をしましょう。
- ◆ 学習時間を決めて、家庭学習をする時は近くにいてあげてください。音読等の練習は聞いて励ましてあげてください。毎日の継続が大切です。

- ◆ 学校からの連絡やお便り、明日の授業などを子どもといっしょに確かめることも大切です。
- ◆ いっしょに買い物をしたり、時計をよんだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。

#### 小学校 3・4年生 自主的な学習習慣を身に付けさせる

(学習時間のめやす 30～60分)

##### ①学習の特徴

- 総合的な学習の時間や社会・理科の学習が始まり、学習する内容も大きく広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 算数では、四則計算(+)、(-)、(×)、(÷)の基礎・基本を徹底して学ぶとともに、分数や小数など少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。

##### ②家庭での支援のポイント

- ◆ 学習を始める前に学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させましょう。自分から机に向かう姿勢を育て、集中して取り組む習慣を身に付けることが重要です。
- ◆ 家族のあたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物を点検したりするなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるように支援してください。学校からのお便りなどを親に手渡す習慣も付けましょう。
- ◆ 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然(植物・昆虫など)などにふれる体験をさせましょう。

#### 小学校 5・6年生 自学自習の習慣を身に付けさせる

(学習時間のめやす 50～90分)

##### ①学習の特徴

- 学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
- 筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を身に付けることができます。

##### ②家庭での支援のポイント

- ◆ 考える力が大人並みになり、時には大人への反抗も見られるようになります。
- ◆ 「やればできる」という気持ちを持たせ、子どもの自尊感情が育つように、ほめたり、励ましたりすることが大切です。
- ◆ 家族の一員として、お手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようになりましょう。
- ◆ 新聞やニュース番組をいっしょに見て社会の事象に関心をもてるようになりましょう。



